

# 保育者養成校における実習日誌に関する 指導法の研究 —幼稚園実習日誌に用いられる“時制”についての調査から—

井 口 眞 美

（2011年10月15日受理）

## 要 約

『一人ひとりに応じた保育』が求められる中、幼児理解を深める実習日誌の指導法について再考するため、実習日誌の指導の現状を調査・分析した。調査結果として、学生が書いた実習日誌の〈一日の流れ〉のうち、〈子どもの活動〉と〈保育者の援助・配慮〉<sup>注</sup>は、「現在形」で記載されることが多かった。市販されている多くの保育者養成テキストでも「現在形」で書いた日誌見本例を掲載している。また、〈子どもの活動〉と〈保育者の援助・配慮〉の内容は一般性が高く、クラス集団の総体的な姿が把握できる一方、個々の子どもの姿が見えにくい。そこに対応する〈実習生の活動・気付き〉も表層的な内容に留まりやすいことがわかった。このことから、養成校において、〈子どもの活動〉や〈保育者の援助・配慮〉には、①集団の総体的な姿を「現在形」で書く、②個々の姿や保育者の援助のエピソードを「固有名詞（仮名）」を使用し「過去形」を交えて書く、の2つの視点をもって記述する指導法を提案する。

**キーワード** 実習日誌、「集団」と「個」の記録、「現在形」と「過去形」の時制、  
固有名詞、一日の流れ

## Ⅰ．問題と研究の目的

### 1. 本研究への取り組みに関する私見

昨今、学生の文章表現力の低下が問題視されている。実際、本学でも、教育実習・保育実習に取り組んだ学生から「日誌さえなければ実習も楽しいのに」「日誌を書くために睡眠時間が削られ辛かった」「毎日同じようなことしか書けなかった」といった日誌に関する感想を聞くことが多い。実習園からの評価でも、日誌の記述が不十分であるとの指摘を受けることが少なくない。中には、その日の日誌を翌朝の日誌提出時刻までに書き終わらなかった学生さえも存在する。

本学では、実習事前指導の中で、実習日誌の書き方に関する指導を行っている。その一つ

に、保育場面（遊び、けんか、片付けの場面等）のビデオ映像を視聴し、実習日誌の〈一日の流れ〉の書式を用いて記録をおこすという学習がある。見たことの中から何を抽出して記録すればよいのかわからず筆が進まない学生、見たこと全てを書こうと冗長的に記録してしまう学生等、保育記録を書き慣れない学生たちにとってはかなり苦心する学習である。その授業後、「（ある教員から）〈子どもの活動〉の欄は全部現在形で書くよう指導を受けた」「見たこと（過去のこと）を書くのだから、過去形で書いた方が書きやすいのに」という学生の声を聞いたことが本研究のきっかけとなった。学生が取り組みやすく、かつ幼児理解が深まる実習日誌の指導法を養成校の立場から提案したいと考え、この研究をスタートさせた。

## 2. 本研究に関する先行研究の動向

### （1）実習日誌に求められるもの

#### ①実習日誌を書く意義とは

そもそも、実習日誌を書く意義とは何か。田口（2006）は、実習日誌を読み取る調査に基づき、学生は、日誌作成の難しさを感じながらも

- ・援助や言葉かけが大切で、そのことを日誌に書いておくことで次につながる
- ・日誌を丁寧に書けるようになることが一人ひとりをしっかりと見ることにつながる

と記述する等、「実習日誌を書くことの意味」を理解していると分析した。<sup>1)</sup> 実習を経験した学生は、「援助や言葉かけを記録すること」や個々の子どもを丁寧に見とるために「日誌を丁寧に（詳細に）書くこと」の大切さ等、実習日誌を書くことの意義に気づいている。その一方で、学生がとらえる実習日誌の意義は、援助や言葉かけのように可視的な内容の理解に留まっているようだ。

坪井（2009）は、「実習日誌は『どういう保育現場で』『何を学んだか』を明らかにするもの」であり「a）事務的な事例、b）保育活動の経過、c）保育について学んだことの3点が記述されていることが必要である」<sup>2)</sup>と規定している。また、実習生の日誌を分析したところ、a）事務的な事例、b）保育活動の経過等、可視的な内容は記録されているが、「保育者の意図」等、c）保育について学んだことに関する記述は不十分であったと述べている。また、個々の子どもの姿について〈反省・感想〉には書かれているが、〈一日の流れ〉に書かれている日誌はなかったという。学生が「保育者の意図や願い」に気づくための手立てとして、阿部、村井（2008）の、実習日誌の形式を見直し「保育者の意図・願い」の欄を設けた研究<sup>3)</sup>もある。実習において、「子どもの思い」や「保育者の意図」に気づく経験は、幼児理解や保育の学びを深める上で欠かすことができない。しかし先行研究により、実習日誌を書く際、目に見えない「子どもの思い」や「保育者の意図」を見とり、日誌に記述することの難しさが明らかになった。

#### ②実習園が実習日誌に求めているもの

では、実習園では、学生の実習日誌に何を求めているのだろうか。打越、藤原、里脇（2006）は、「実習園の指導担当職員が実習生の日誌に求めていること」として、A記録をきちん

と（細かく、具体的に）とる、B子どもの活動や発達の観察、理解がしっかりとしている、C保育士の対応やポイントを押さえるの3点を挙げている。<sup>4)</sup> 本学でも、実習園から「もっと細かい記録がとれるとよい」との評価を得た学生は少なくない。毎日同じような内容の繰り返しになってしまうという学生の反省からも、学生自身、「詳細な記録」をとることの困難さを感じていることがわかる。まだ記録する経験の少ない学生に対しては、「詳細な記録を書きなさい」と指導するだけでなく「どうしたら詳細な記録がとれるのか」を具体的に示す必要がある。

本研究では、まず、実習日誌を書くことの意義を明らかにしたいと考えた。そのために、保育者養成テキストに記載されている「実習日誌の意義」を調査・分析する。

更に、ここまでの先行研究により、学生の実態として、目に見えない「子どもの思い」や「保育者の意図」を把握することが難しい、「詳細な記録」をとることが難しい等の姿が見えてきた。そこで、本研究においては、＜一日の流れ＞の欄に着目し、保育者養成テキストの記載内容を調査・分析する。そして、幼児理解、保育の学びが深まる実習日誌の書き方の改善を提案していきたい。

## （2）実習日誌における「集団」と「個」の記録に関する研究

### ①実習日誌は「集団」の記録（一般化の高い記録）でよいのか

柴山（2006）は、エスノグラフィーの記録と実習日誌の記録とを比較しており、観察実習の日誌における＜一日の流れ＞の特徴として、

園児・保育者の総合について、行為主体を明示しない形で言動を書きます。これは単に書き方の問題に留まらず、園児も保育者も一人ひとり別の個人として見るというよりも、集団として個人間の共通部分に目を向けてみることを方向づけるという点で、観察者（実習生）の見方を規定しているように思われます。…もちろんこれを補足する形で、（＜毎日の振り返り＞の欄では）日々のねらいに即した焦点的観察がなされており、活動の一部を詳細に観察することによって、園児を個別に見て書く機会を与えています。ただし、実習生にとって強く印象に残った園児（多くの場合、特別な配慮や声かけが必要な園児）が取り上げられる傾向があるようです。<sup>5)</sup>

としている。

このように、＜一日の流れ＞においては、子どもや保育者（行為主体）を明示しないで、総体的な姿を記述するというが、「集団」の総体的な姿のみが記録されることの多い、実習日誌の現状に疑問を呈したい。本研究においては、保育者養成テキストや学生の実習日誌における＜一日の流れ＞の内容について分析を行い、「集団」と「個」の記録の実態を調査する。

### ②「個」の記録（個別性、具体性の高い記録）が求められる理由

実習とは学生にとって大変貴重な体験ではあるが、ある一つの幼稚園のわずか数日の体験でしかない。子どもの実態や保育者の援助に関しても、現場から学ぶ点はもちろん計り

知れないが、それを性急に一般化することには危険性もはらんでいる。その意味で、津守房江（1984）の言葉は実習日誌の書き方を考え直す上で、重要な視点を示唆している。「常識や知識の枠をとりはらって、自由な想像をめぐらせながら、子どもたちの行動とその内側にある心の世界を考えていきたい」<sup>6)</sup>という。この著書では、「子どもとのやりとり」「子どもの心にふれる」「子どもを支える」「子どもと人間について発見する」の4章で構成されているが、これらは、『育てること』の4つの側面でもあると捉えている。実習日誌においても、一般化を急がず、個々の子どもとの固有のエピソードを一日ごとに積み重ねた上で、実習の総括として「子どもについて発見する」という一般性を導き出せばよいと考える。

保育現場における学びは、個々の体験を重視し、ある子どもの行動に驚いたり、一人の子どもの気持ちに共感したりすることから学びを深める必要があると考える。中村(1992)も、＜臨床の知＞あるいは＜フィールドワークの知＞を、「科学の知は、抽象的な普遍性によって、分析的に因果律に従う現実にかかわり、それを操作的に対象化するが、それに対して、臨床の知は、個々の場合や場所を重視して深層の現実にかかわり、世界や他者がわれわれに示す隠された意味を相互行為のうちに読み取り、捉える働きをする」と述べている。<sup>7)</sup>

幼稚園実習においても、その園の一日の大まかな流れを把握することは、将来、保育者となり、クラスを導く立場となる上でも大切な学びであることは間違いない。しかし、それと同時に、個々の子どもの行動や心の動きを学生自らの体験で感じ取ることも大切な学びであり、日誌に記録すべき内容であることを強調したい。

保育は、「集団」と「個」双方の見とりを重ねながら実践すべきものである。それなのに、なぜ、実習日誌の＜一日の流れ＞の中では、「集団」の記録が優先されやすいのであろうか。鯨岡（2009）によれば、保育現場は子ども一人ひとりを主体として受け止めることがおろそかになって、保育者の「させる」働きかけや集団として動かす働きかけが必要以上に強くなっているように見えるという。<sup>8)</sup> その結果として、「何ができて、何ができないのか」という子どもの行動、とりわけ全体の流れに乗れない子どもが目についてしまい、子ども一人ひとりの心に目が向かなくなることを危惧している。鯨岡は、この目に見えない一人ひとりの心の有り様を記録する、エピソード記述の手法を提案している。

### （3）実習日誌の書式の改訂に関する研究

#### ①時系列型からエピソード記録型へ

上述のエピソード記述の手法を用い、実習日誌をエピソード記録型へと改訂する動きも見られる。実習日誌の書式の改訂に関する研究としては、猿田（2008、2009）のエピソード記述がしやすい自由記述形式に改善した研究<sup>9、10)</sup>や、栗山（2010）の一週間ごとに日誌の形式を変える研究<sup>11)</sup>等がある。しかし、学生の実習経験の実態として、限られた実習期間の中で2～3日ずつ各クラスを次々と観察するケースも多く、そのクラスの一日の流れを把握する記録を省くことには、「集団」の理解を深めるという日誌の1つの目的

から見て疑問が残る。

阿部、村井（2008）は、学生に、教育実習期間中の2日間とその半年後2日間に、同一対象児の個人観察を行う課題を与えている。その結果として、「幼児を多方面から捉え、幼児の内面、心の中を知ろうと努力する姿勢、そしてそれを受け止めようとする姿勢がみられるようになった」<sup>12)</sup>という。ただし、この研究は、実習日誌とは別に学習課題（時間見本法による観察とその感想）を与えていること、実習期間中2日間を個人観察にあてていること等から、短大養成校の短い実習日程では実施は難しいと思われる。

## ②反省的思考を高めるために

また、幸、秋田、紀藤（2008）は、「反省的实践」に有効な保育実習記録様式として、「内的体験」を自由記述形式で書かせる実習日誌を推進しているが、「多くの学生が、行動上の『事実（いわばエビデンス evidence）』を重視し、『感じたこと、気づいたこと、考察』などの『そこ（自己や他者）にいったい何が起きているのかという内的現実を記述すること（いわばナラティブ narrative）』に意義が十分見いだせず、また表出することに困難を感じている」<sup>13)</sup>ことを明らかにした。小山（2007）も、「エピソード記録型実習日誌は有効な記録となり幼児理解につながっていくが、日本語の表現に問題があり、なおかつ記録にふさわしい意義ある保育場面が取り上げられない学生にとっては、エピソード記録型の日誌は負担となり、現場の先生方の実習指導に支障をきたす」<sup>14)</sup>とも述べている。エピソード記録には、個々の子どもの姿をありのままに記述できるよさがある一方、文章表現力が問われる、記録に相応しい場面の取り上げ方が難しい等の問題点も多い。本研究では、従来の時系列型の書式をそのまま使用するが、「集団」の見とりと「個」の見とりとのバランスをとり、両者の記録を併用する方法を提案したい。

野尻、栗原（2006）は、「学生が責任実習において是非経験して欲しいものの一つに前段階の反省的思考があげられる」「『出来たこと、出来なかったことの振り返り（事実）』→『すればよかったこと（対処方法）』→『考察（抽象的思考）』の流れが日誌記述に必要である」<sup>15)</sup>という。筆者は、＜一日の流れ＞において、＜子どもの活動＞＜保育者の援助・配慮＞が一般化した内容の記録に終始していると、反省的思考は導けないと考えている。＜一日の流れ＞に、子どもの姿や保育者の関わりを具体的に記録することで、その一つ一つの事例に対応する反省的思考も導き出せる。一つのエピソードにまつわる記録の中で、子どもの言動から思いを見とり、子どもに関わり、その反省をするという一連の思考の流れを身につけることが必要である。

5

## （４）実習日誌に用いられる時制について

### ①「現在形」と「過去形」が示す「一般性」と「個性性」

実習園や保育者養成テキストでは、＜子どもの活動＞＜保育者の援助・配慮＞は「現在形」で書くよう指導することが多いと予想される。その実態については、本研究で調査・分析を行う。この「過去形で書かず、現在形で書く」指導は、慣習的に行われてきたよう

にも思われるが、ここでは、実習日誌に用いられる時制の意味について考えてみたい。

ハラルト・ヴァインリヒ Harald Weinrich (1982) は『時制論』の中で「過去形が過去のことを、現在形が現在のことを示すとは限らない」と述べ、「発話の態度」の違いから言語の時制を2つのグループに分類し、以下のように説明している。<sup>16)</sup>

▲時制群Ⅰ（現在形に類するグループ）＝「説明された世界の時制」

- ・抽象的、一般的なものを説明することが多く、叙情詩、戯曲、科学的な報告、哲学的エッセイ、社説等において優位を占める。
- ・話し手と聞き手との間に「緊張」の発話態度を呼び起こす。

▲時制群Ⅱ（過去形に類するグループ）＝「語られた世界の時制」

- ・具体的なものを説明することが多く、短編、歴史記述、小説、物語等において優位を占める。
- ・「緊張緩和」の発話態度を呼び起こす。

この「説明」と「語り」の指標は、バンヴェニスト E. Benveniste の述べる「Discours（言述）」と「Histoire（話し）」とも同一視できるとしている。

ヴァインリヒが行ったのは印欧の言語に関する調査であるが、これは日本語にも適応できると考えられ、「なぜ現在形に直さなければいけないのか？」「過去のことなのだから過去形で書いた方が書きやすいのに」という学生たちの率直な発言の理由も明らかになる。つまり、「過去のことだから過去形の方が書きやすい」だけではなく、観察した具体的な個々の姿を想起しながらも、（原則として）主語をなくし、一般性をもたせ現在形を用いて「説明」し記述しなければならないところに困難さを感じているのであろう。だとすれば、学生が想起しているイメージのまま、個々のエピソードについて、過去形も用いて「語り」を綴らせた方が日誌作成にあたっての抵抗感を軽減できるのではないだろうか。学生の文章表現力が問題視されている昨今、“実習日誌＝大変なもの”ではなく、幼児理解の大切な手だてとして受け止められるよう、学生にとって書きやすい日誌の指導法を提案したいと考える。

## ②主語の明記

個人情報保護の観点から、子どもの固有名詞を実習日誌に記録することを禁止する園は少なくないようである。しかし、A男、B子といった仮名を使用することで、エピソード記録も、より具体的でわかりやすいものとなる。「ある子が」「～な子がいた」という記録ではなく、A男、B子等の固有名詞を使用することで、A男、B子に対応した＜保育者の援助・配慮＞も具体的に記録されると考えられる。

### 3. 本研究で明らかにしたいこと

現在、本学では、幼稚園免許と保育士資格取得のため2年間で5回にわたる実習を行っている。この5回の実習経験を通して幼児理解が深まる実習日誌の書き方の指導法について考えてみたい。

本研究では、市販されている保育者養成校テキストの記載内容から、①実習日誌の意義、②具体的な記録方法を調査する。また、学生が書いた実習日誌の記録内容について調査・分析を行う。その中でも特に着目したのは＜一日の流れ＞のうち＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞の欄における「集団」と「個」の記録の仕方、そして使用されている「時制」についてである。

以上の調査・分析を行った上で、「どのように実習日誌を書けばよいのか」を明らかにし、養成校における指導法を提案することが目的である。

## II. 研究方法

### 1. 調査対象

- (1) 幼稚園・保育所実習に関する保育者養成テキスト 30冊
- (2) 本学短大生 平成22年10月実施の1年次教育実習（幼稚園）の日誌27名分

### 2. 調査方法

#### (1) テキストの分析

市販されている幼稚園・保育所実習に関する保育者養成テキスト30冊を選び、以下の3点についての調査・分析を行う。

- ①実習日誌の意義について
- ②＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞に関する内容
- ③日誌見本例の記載、その他

#### (2) 実習日誌の分析

本学短大生平成22年10月実施の1年次教育実習（幼稚園）の日誌27名分に関して調査・分析を行う。

この27名の学生は、実習事前指導において、保育場面のビデオを視聴し、実習日誌の＜一日の流れ＞の書式を用いて記録をとるという学習を行っている。ここでは、観察した短いエピソードを書き起こすことを目的として行ったが、「現在形」「過去形」の時制の使用法については言及していない。

この27名が書いた幼稚園の教育実習日誌の内容について、以下の2点を分析する。ここでは、実習園の実習担当教員の指導内容が最も反映されていると思われる「最終日」の日誌の内容について調査・分析を行った。

①学生が書いた実習日誌のうち、＜一日の流れ＞の記録内容

- ・＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞の記録内容  
（過去形、固有名詞（仮名）の使用）
- ・＜実習生の活動・気づき＞の記録内容
- ・日誌に記載された実習担当教員のコメント その他

②実習担当教員へのインタビュー

なお、実習先であるA幼稚園の実習担当教員から実習日誌の指導に関して話を聞くことができたので、その内容についても分析を行う。

### Ⅲ．調査結果と分析

#### 1. テキストの分析

調査した30冊のテキストの多くで、日誌見本例のうち＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞の項目は現在形で統一されていた。また、＜子どもの活動＞は具体的に書くといとは記されているが、「集団」の記録がほとんどであり、「個」の記録は少ない。「個」の記録は、＜保育者の援助・配慮＞あるいは＜今日の振り返り（考察）＞の欄に記録すると指示するテキストもあった。以下に、代表的な3冊のテキストの内容を挙げておく。

#### 【テキストA<sup>2)</sup>】

##### ①実習日誌の意義について

「日誌を書くことにより、その日1日の実習を振り返り、反省することができる。また、どのような実習であったのかを記録にすることで、新たな課題が明確にできる。」と記されている。

##### ②＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞に関する内容

幼児の活動	保育者・実習生の活動
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     その日の自分のねらいに合わせて、子どもの様子を具体的に記入すると充実した記録になります。                 </div> と記載されている。	●＜幼児の活動＞、＜保育者の援助・配慮＞の時制に関する表記はない。

また、エピソード記録にも触れ、「ある場面について、まとまりのあるエピソードとして記述していく書き方をエピソード記録といい、時系列形式では表しきれないことを書くときに用います」と述べ、＜一日の流れ＞の中ではなく＜考察＞として書くとしている。

##### ③日誌見本例の記載

日誌例が10例記載されており、9例はすべて現在形で示されている。1例のみ、＜幼児の活動＞＜保育者・実習生の活動＞の中で、個々の子どもの活動とその関わりに関して、過去形が用いられていた。

【テキスト B<sup>3)</sup>】

①実習日誌の意義について

「1日の流れを把握し、保育者の職務内容や子どもの生活の実態、保育環境などを理解する。また、記録をとることを意識することで、より深い観察やより良い気づきが期待できるのである。」と記されている。

②＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞に関する内容

乳幼児の活動	保育者の援助と配慮	実習生の活動・気付き
乳幼児全体のことを記録し、個別の行動は書かない。ただし、個別の対応が必要な場合は、 ＜保育者の援助と配慮＞の欄に書く。 と記載されている。	●＜乳幼児の活動＞ ＜保育者の援助と配慮＞の欄は共に、 現在形で示されている。	●この欄は、現在形、 過去形が併用されている。

③日誌見本例の記載

＜一日の流れ＞のみが記載されていた。いずれの見本例も、現在形に統一してある。

【テキスト C<sup>4)</sup>】

①実習日誌の意義について

「実習での学習内容や経過を記録するもの」であるとしている。

②＜子どもの活動＞と＜保育者の援助・配慮＞に関する内容

子どもの活動	保育者の援助と配慮	実習生の活動・気付き
この欄には、大まかな子どもの活動を書く。 ただし、実習先の園によっては詳細に書くことを求められる場合もあるので、この場合は園の指示に従った方がよい。 と記載されている。	●「厳密に言えば『登園した。自由に遊んだ。片付けた。』という過去形の記述になるのかもしれないが、すべて過去形で表記すると、その時点での子どもの活動の意味や保育者のかかわりの臨場感が薄れ、日誌の書き方としてそぐわないので、『登園する。自由に遊ぶ。片付ける。』という表記の方が自然であろう。」と記載されている。	●この欄は、現在形、 過去形が併用されている。

上記の＜保育者の援助と配慮＞の欄に示したように、過去形で書くことへの疑問を解消しようと解説を試みている点が興味深い。ここでは、過去形を用いると「臨場感が薄れ、日誌の書き方としてそぐわない」ととらえている。

③日誌見本例の記載

現在形で示されている。

## 2. 実習日誌の分析

### （1）実習日誌の記録より

- ・ 27名の1年次教育実習日誌の〈一日の流れ〉の記録内容
- ・ 〈子どもの活動〉と〈保育者の援助・配慮〉の記録内容  
（過去形、固有名詞（仮名）の使用）
- ・ 〈実習生の活動・気付き〉の記録内容 その他

について調査、分析した。結果として、〈子どもの活動〉〈保育者の援助・配慮〉は、簡潔な文章で総体的な姿を記録していることが多かった。なお、〈子どもの活動〉〈保育者の援助・配慮〉の項目について、現在形のみの時制で書いているものは19例、残りの8例は過去形・現在形が入り交じった時制を用いていた。

以下に、実際に学生が書いた実習日誌の記録を示す。なお、〈今日の振り返り〉における「個」のエピソードの扱いに関しても示しておく。

#### ①〈一日の流れ〉の記録内容について

【例1：学生A】（過去形なし、固有名詞なしの例）

子どもの活動	保育者の援助・配慮	実習生の活動・気付き
○『あさたろう』を踊る。	・ 誉めることで頑張ろうという気にさせている。	・ 子どもはかっこ良く楽しそうに踊っていた。

ここでは個々の名前を特定せず、クラスの総体的な一日の流れが把握できるように記録されている。それに対応させ、〈保育者の援助・配慮〉では、保育者の意図（頑張ろうという気にさせている）を交え、保育者がしたこと（誉める）を記録している。加えて、〈実習生の活動・気付き〉では、その時に見とれた子どもの具体的な姿（かっこ良く楽しそうに踊っていた）を記録している。

【例2：学生B】（過去形なし、固有名詞ありの例）

子どもの活動	保育者の援助・配慮	実習生の活動・気付き
・ C君に『入れて』と言うと『だめ』と言われD君は泣いている。 ・ 先生に話を聞いてもらい2人とも落ち着く。	・ C君、D君を呼び話をきく。 親身になり共感しながら「うん、うん」と寄りそうように話をきき、どのように伝えるのか、子どもに教え練習させる。	・ 『どうしたの?』とD君に話しかけ話を聞くがどのようにしたらよいかわからず先生に助けを求める。寄りそい、そして言い方を教えてあげることが大切なのだと教えてもらう。

この学生は、〈実習生の活動・気付き〉で、こういった保育者の意図や自ら気付いたこと、反省を適宜述べている。更に、〈今日の振り返り〉において「泣いている子どもがいると『どうしたら良いのか』などと戸惑ってしまうことが多いです」と、その場面を話題にして反省することで、担当教員からも、泣いている子どもへの対応について回答を受けている。

＜子どもの活動＞に関しては、現在形で書くことが統一されており、このエピソードも二つの箇条書きで構成されていた。過去形と現在形を併用することで、この一連のエピソードは一つのまとまりとして記録する習慣がつくとよいと思う。

【例3：学生C】（過去形あり、固有名詞ありの例）

子どもの活動	保育者の援助・配慮	実習生の活動・気付き
・K男『T、N君が蹴ったボールが手に当たった。痛え』とTに訴える。	・『サッカーのキーパーは、手とか足でボールを止めるから、Kちゃんキーパーできてよ。凄いね。かっこいいよ』と答えていた。	・『大丈夫?』と心配するのではなく、キーパーのやり方を教え、痛いけど止められたことは凄いことなんだよと言うことで、子どもの遊びに対する気持ちを高め、楽しく遊べるよう声をかけるようにすると思った。

K男のエピソードを実際の発話も記録し、現在形、過去形を交えて使用している。また、その際の実習生の気付きも具体的に記されている。一日の中に数カ所、このようなエピソードが見られた。

【例4：学生D】（過去形1カ所のみ、固有名詞なしの例）

子どもの活動	保育者の援助・配慮	実習生の活動・気付き
◎一人の男の子が、実習生に『叩かれた』と話す。叩かれた子は泣いていた。叩いた子は、実習生が声をかけるまで気が付いていない様子だった。 （※この場面のみ◎をつけ、過去形で表記。他は、●をつけ、現在形を使用していた）	（記録なし）	・叩かれたと言った子と、叩いた子を残し、実習生が間に入り話し合った。叩いた子は実習生の問い掛けに答えず、『叩いていない』と言っていた。『ちょっとだけ叩いちゃったのかな』と聞くと返事をしたので謝るように声を掛け、援助した。

一日の中で1カ所だけ、個のエピソードが書かれていた。実習生自らが関わったこともあり印象的な場面だったと思われる。それ以外の＜子どもの活動＞は、クラス集団の一般的な様子が簡潔に記録されていた。

②＜今日の振り返り＞の記録内容について

この欄で、個別のエピソードを記述した例は27名の学生の日誌中2例と少ない。しかも、そのエピソードも「関わりの少なかった子に関われて嬉しかった」といった簡単な感想でしかない。このページの多くは、自分の保育（絵本読み、お話など）の振り返りや保育者の関わりについての見とりや気付きで占められていた。

本来なら、テキストでも述べられているように、この＜今日の振り返り＞においては、＜一日の流れ＞で書くことができなかった個別のエピソードを記述する必要がある。しかし、

実態としては、学生が自らたてた今日の目標・ねらいや、その日に行った部分保育、一日保育の振り返りを述べるのが優先され、個別のエピソードは記録されることが少なかった。

## （2）実習園の先生へのインタビューより

ある実習園の実習担当教員から日誌の指導に関して話を聞くことができた。この実習担当教員は、市の新任研修においても指導的な役割を担い、日誌等の記録の指導を行っているベテラン教員である。

＜一日の流れ＞に関しては、「慣習的に、日誌は現在形で指導することになっている」「先々、指導案の記述に結びつくよう、日誌も現在形で記述させている」（傍点は筆者）という。

この実習園Aで指導を受けた学生の日誌を見ると、【例1：学生A】のパターン同様、簡潔な表現で、クラス集団の総体的な＜子どもの活動＞やそれに対する＜保育者の援助・配慮＞が記録されている。＜実習生の気付き＞には、＜子どもの活動＞に書ききれなかった子どもの姿を補足的に記録している。残念ながら、このインタビューでは、上記の内容に関して更に踏み込んで質問することはできなかった。それでも、実習日誌の書き方に関しては、“慣習的”な指導法が用いられていたり、実習日誌と指導案（日案や活動の細案）の書き方が混同されていたりする実態が見えてきた。今後、幼稚園現場での実習日誌の指導法について広く調査する必要がある。

## IV. 考察

この研究で見えてきたこととして以下の3点を挙げる。

### 1. 保育者養成テキストの現状の把握

調査した保育者養成テキストにおいて、実習日誌を書く意義として、

- ・子どもや保育に関する深い観察や見とりを行うため
- ・実習における次の課題を見出すため

等が多く挙げられていた。また＜子どもの活動＞の記述は、現在形に限定され、クラス集団の総体的、一般的な姿を記載していることがわかった。養成校においても、＜子どもの活動＞＜保育者の援助・配慮＞については「現在形で書く」ことが指導されていることが少なくないと思われる。

### 2. 実習日誌の現状の把握

時制に関して事前指導を受けずに幼稚園実習に臨んだ27名の日誌を調査したところ、27名中8名が過去形・現在形が入り交じった時制を用いていた。しかし、現在形のみで記録している27名の学生の中には、幼稚園の指導教員から「現在形で書く」よう指導を受けた学生も数名いることがわかった。このように、幼稚園現場での日誌の指導については、統一性はない現状が把握できた。

また、＜実習生の活動・気付き＞に関しては、＜子どもの活動＞や＜保育者の援助・配慮＞に書ききれなかった子どもや保育者の様子を細かく書き加えただけの記録も多い。更に、子どもの心の内面を示した記録は大変少ないことがわかった。

### 3. 詳細な「個」の記録をするための「過去形」と「固有名詞」の使用

保育は、「集団」と「個」のバランスをとりながら、子どもを見とることが求められるだけに、実習日誌の記録もどちらか一方に偏るのではなく、「集団」と「個」双方の記録を大切にしたいと考える。

子どもや保育者に関する個別的なエピソードを詳細に書く時には、現在形だけでは記述しきれず、時間の流れに沿って過去形・現在形が入り交じった時制になるのは必至である。また、学生にとって、保育（過去）を思い出し日誌に書き起こす作業の中で、「過去の事例を一般化して現在形に直す」ことに若干なりとも抵抗があるのだとすれば、学生の日誌作成の負担感を軽減させるという目的においても意味をもつ。また、「固有名詞」を使用し、主語を明記することによって、エピソードの描写をより具体的なものにしていく必要がある。

## V. まとめ

### 1. 実習事前指導における実習日誌の指導法に関する提言

本研究において、実習日誌の指導の現状が明らかになった。学生が教育実習において幼児理解を深めるためにも、実習事前指導の改善を図る必要がある。ただし、養成校の実習事前指導は、実習園との連携をふまえた上で実施しないと混乱が生じるため、今回提案する指導法に関しても慎重に実施したい。

本研究から見えてきた実習日誌の指導法について以下のように提案し、今後実践を重ねたいと考える。この指導法では、

（１）子ども一人ひとりの記録を大切にし、一般化を急がない

（２）子どもの姿や保育者の関わりを自分なりに一般化して捉え直してみる

という２段階のプロセスを踏みながら、記録の技量を研鑽し幼児理解を深めることを重視する。

（１）子ども一人ひとりの記録を大切にし、一般化を急がない

…＜一日の流れ＞の記録　　【表１：＜一日の流れ＞の一例】を参照）

＜子どもの活動＞＜保育者の援助・配慮＞の欄については、現在形に限定せず、過去形も使用してよいとする。もちろん、「登園する」「一人ひとりの視診をし、健康観察を行う」等、明らかに一般的に記述される「集団」の内容に関しては、現在形で書く方が適切であり、表記上も簡潔である。

ただし、「個」の記録については、固有名詞（個人情報保護上、A子、B男といった仮名）を使用して行為主体を明示し、誰についての記録なのかを意識しながら記録する習慣をつけ

る。そして、「現在形」と「過去形」を併用した時制表記をし、エピソードの経過に沿って、子どもの姿と保育者（あるいは実習生）との関わりが具体的にわかるような記録を心がけさせる。一日の中で、1つでも2つでもよいので、印象に残った「個」の姿について記録を行う。

その際、一般的な内容と個々の子どもの姿、両者の違いがわかるように、○で一般的、総体的なクラスの様子を、・で個々の子どもの姿を示すこととする。

更に、反省的思考を高めるためにも、その個々のエピソードから何がわかったか、何を学んだかを＜実習生の活動・気づき＞に具体的に記述するというプロセスを＜一日の流れ＞の中に盛り込む。このことが、学生に過度の負担を与えることなく、また、保育の基本である「集団」と「個」、双方の見とりの目を養うことにつながると言える。

## （2）子どもの姿や保育者の関わりを自分なりに一般化して捉え直してみる

…＜今日の振り返り＞の記録

この欄は、その日の総括的な振り返りを書く欄である。「初日ということもあり、緊張感から、子どもとの関わりが消極的になってしまった」「部分実習の時間をいただいたが、絵本を読む声が小さかったことが反省である」等、実習生としての自己評価・反省の場である。

こういった自己の行動に関する振り返りに加え、幼児理解の手だてとして、＜一日の流れ＞で記録したエピソード記録を再度振り返ることを勧めたい。その際、「その時の子どもの気持ちをどう読み取ったのか」「実習生はどう行動すべきだったのか」といった反省的思考に基づき、エピソードを一般化して捉え直していただくことが必要であると結論した。

## 2. 研究の課題

### （1）更に広域な範囲で調査を行う必要性があること

今回の研究では、保育者養成テキストにおける日誌見本例や、本校の実習日誌の記録を調査・分析した。引き続き、更に広い範囲での実習日誌の書式や指導の現状に関する調査を行う必要がある。

### （2）実習事前指導において指導法を実践してみること

今後、本研究にて提案された指導法を実習事前指導において実践する。そして、その成果を検証することが求められる。

【表 1：＜一日の流れ＞の一例】

時間／項目	子どもの活動	保育者の援助・配慮	実習生の活動・気付き (実)は実習生の活動)
8:50 ～ 登園する	○登園し身支度を整える。 …ロッカーにかばんをかける。外遊びをする子は帽子をかぶる。 ・ A 子は、玄関から動かず、泣きながら母親に強い言い方で何かを訴えていた。	・ 一人ひとりに丁寧に何をして遊ぶかたずね、遊びに見通しがもてるようにしている。 ・ A 子を抱きかかえ「ほらドロケイしてるよ」と A 子の気持ちを落ち着かせていた。	・ 連休明けだったので、何をして遊ぶか決めるのにしばらく時間がかかる子もいた。 ・ A 子はここ数日登園時に泣いている。母親が出産間近のため気持ちが不安定になりがちのようだ。
9:00 好きな遊びをする	＜ 4 歳児保育室＞ ・ お店やさんごっこ（B 子、C 子、A 男／B 男、D 子） …ままごとコーナーや積木の場でお店やさんごっこをする。 ・ 製作遊び（C 男、D 男、E 男） …自分の作りたい武器等を作る。C 男、D 男、E 男の 3 人は、ロール芯 2 本を使って、お揃いのピストルを作っていた。	・ 友達との関わりが持ちやすいお店やさんごっこ（ケーキ屋さん、折り紙屋さん等）の場を用意しておき、遊びに誘う。 ・ じっくりと製作に取り組めるよう椅子を出しておく。また、「C 君、ちょっと E 君のピストル、押さえてあげてね」と周りの子に補助を頼んでいた。	・ お店やさんごっこの場や材料が用意されていたため「(先週の続きを) またやりたい」とお店に参加する子がたくさんいた。 ・ 「ここやって」と頼まれることが多く、すぐに手伝ってしまった。(実)しかし、保育者は友達同士で協力して作れるようなきっかけ作りをしていた。(特に E 男に対して)

注）本稿で述べる＜一日の流れ＞、＜子どもの活動＞、＜保育者の援助・配慮＞、＜実習生の活動・気付き＞、＜今日の振り返り＞は、本学の教育・保育実習日誌の書式で使用されている用語である。日々記録する実習日誌の構成は、＜今日の目標＞＜一日の流れ＞＜今日の振り返り＞の3つからなる。調査したテキストによれば本学と同じ構成の書式が多数を占めていた。そこで本稿では混乱を避けるため、本学で使用している用語で統一することにした。（但し、文献を引用した部分においては、原文通りの用語を使用している。）

## 引用文献、参考文献

- 1) 田口鉄久「教育・保育実習による実習生・幼児・保育者の相互成長（2）－保育実習Ⅰ（保育所）実習日誌の読み取りから－」『高田短期大学紀要』第24号，2006，p.133
- 2) 坪井葉子『実習日誌作成の意義と学びの実態』洗足論叢，2008，pp.272
- 3) 阿部直美，村井尚子「保育者の意図・願いを見据えた実習日誌の記録の試み」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』第8号，2009
- 4) 打越みゆき，藤原明子，里脇福代「保育士養成コースにおける実習を通しての学習の分析－実習評価票・実習日誌の分析を通して－」『星美学園短期大学研究論叢38』2006，pp.63-64
- 5) 柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門』新曜社，2006，pp.166-167
- 6) 津守房江『育てるものの目』婦人之友社，1984，p.3，p.213
- 7) 中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波新書，1992，p.135
- 8) 鯨岡峻，鯨岡和子『エピソード記述で保育を描く』ミネルヴァ書房，2009，p.1，p.13
- 9) 猿田興子「保育科短大における実習指導について－教育実習における日誌記述についての考察その2－」『聖園学園短期大学研究紀要』第38号，2008
- 10) 猿田興子「保育科短大における実習指導について－実習記録から幼児理解につながる気づきの考察－」『聖園学園短期大学研究紀要』第39号，2009
- 11) 栗山陽子「保育所保育実習における実習記録－「毎日の記録」様式作成の経緯と「毎日の記録」様式改訂の思案－」『子ども学研究論集』2010
- 12) 阿部直美，村井尚子「実習における個人観察の意義の検討」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』第7号，2008，p.119
- 13) 幸順子，秋田房子，紀藤久美子「『反省的実践』に有用な保育実習記録様式作成に関する研究－実習生と保育所への調査結果を通して－」『保育士養成研究』第26号，全国保育士養成協議会，2008
- 14) 小山祥子『幼児理解と保育者の援理解を深める保育記録に関する研究（Ⅱ）－エピソード記録型実習日誌の効用と課題－』北陸学院短期大学，2007
- 15) 野尻裕子，栗原泰子「幼稚園教育実習における反省的思考について－実習日誌に記述した内容から－」『川村学園女子大学研究紀要』2006，p.25，p.28
- 16) ハラルト・ヴァインリヒ『時制論 文学テキストの分析』紀伊國屋書店，1982，pp.21-22，pp.36-37，p.321

## 引用文献（データ引用）

- 1) 淑徳短期大学編『実習の手引き』2010
- 2) 百瀬ユカリ『よくわかる幼稚園実習』創世社, 2009, p.76
- 3) 高橋哲郎, 菱谷信子監修, 田尻由美子, 元田幸代編『保育者をめざす学生のための実習指導サブノート』ふくろう出版, 2008, p.15
- 4) 相馬和子, 中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林, 2004, p.19, p.27-28
- 5) 小林育子〔ほか〕『幼稚園・保育・施設実習ワーク』萌文書林, 2006
- 6) 民秋言, 小田豊, 栃尾勲, 無藤隆編『新保育ライブラリ 保育の現場を知る 幼稚園実習』北大路書房, 2009
- 7) 小館静枝他編『幼稚園・保育所実習のよく出会う問題とその対応』萌文書林, 2009
- 8) 阿部恵, 鈴木みゆき『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに, 2002
- 9) 阿部和子, 増田まゆみ, 小櫃智子編『最新保育講座⑬保育実習』ミネルヴァ書房, 2009
- 10) 山岸道子編『保育所実習』ななみ書房, 2007
- 11) 民秋言, 安藤和彦, 米谷光弘, 中西利恵編『保育所実習』北大路書房, 2009
- 12) 民秋言代表『実習生のための自己評価チェックリスト』萌文書林, 2005
- 13) 田中東亜子, 志賀智江, 松村和子『幼稚園教育実習第3版』日本文化科学社, 2010
- 14) 高橋かほる監修『幼稚園・保育園実習まるわかりガイド』ナツメ社, 2009
- 15) 林幸範, 石橋裕子『最新保育園幼稚園の実習完全マニュアル』成美堂出版, 2011
- 16) 田中亨胤監修, 山本淳子編著『0～5歳児年齢別実習完全サポート 実習の記録と指導案』ひかりのくに, 2011
- 17) 松本峰雄監修『ユーキャンの保育実習これだけナビ』自由国民社, 2010
- 18) 玉井美知子監修, 田中正浩, 浅見均編著『免許取得に対応した幼稚園教育実習』学事出版, 2002
- 19) 玉置哲淳, 島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』建帛社, 2010
- 20) 神戸親和女子大学発達教育学部児童教育学科編『実習に関する100の質問 保育所・幼稚園・曜学校・施設実習読本』あいり出版, 2005
- 21) 名須川知子, 青井倫子編著『幼稚園教育実習の展開』ミネルヴァ書房, 2010
- 22) 菊地明子著『幼稚園・保育園・養護 教育実習ハンドブック』明治図書, 2005
- 23) 実習ガイドブック編集委員会編『ポイントで理解 幼稚園・保育所・福祉施設実習ガイドブック』(株) みらい, 2004
- 24) 東京家政大学「教育・保育実習のデザイン」研究会編『教育・保育実習のデザイン』萌文書林, 2010
- 25) 河邊貴子, 鈴木隆編『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』同文書院, 2010
- 26) 保育士養成講座編纂委員会編『保育実習 (第4版)』全国社会福祉協議会, 2010
- 27) 全国保育士養成協議会『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房, 2007
- 28) 寺田清美, 渡邊暢子監修『保育実習まるごとガイド』小学館, 2010
- 29) 大場幸夫, 大嶋恭二編『新・保育講座 13 保育実習』ミネルヴァ書房, 2010
- 30) 鈴木みゆき編著『実習のヒントとアイディアー導入・展開・まとめー』萌文書林, 2008